

静岡県連・40周年記念山行報告書

会名	裾野麗峰山の会	報告者	後藤隆徳
年月日	2005年11月26日(土・晴)		
山名	戸田・雉尾(きじお・700m)		
地図	達磨山(2万図に拡大)		
体力度=楽	技術度=楽	藪漕度=少しある	道標=全くない
展望度=達磨山・富士山・駿河湾	三角点=三等三角点	トイレ=ない	
変わった山名を訪ねる			
コースと タイム	修善寺—戸田峠—新田—北西尾根取り付き8:30—雉尾10:00—840m 峰11:00—765m峰11:45~13:00—林道14:30		
標高差	上り=北西尾根取り付き200m—雉尾700m=約500m 下り=840m峰—林道330m=約510m		
参加者	CL・後藤隆徳、加藤秀子		

戸田の達磨山は千mに少し掛けるが、西面は標高差が大きく興味深い山域である。ここには以前から気になっていた「雉尾」がある。しかし、この山の同定に少し問題があった。ゼンリンの伊豆の地図を見ると「雉尾」は、駿馬山と達磨山南の836mの尾根を結ぶ中間の678mを指している。しかし、地図で地形を見ると今ひとつスッキリ、ハッキリしない。何となく貧弱なのだ。むしろその東の700m峰の方が北に大きな尾根を従え立派に見える。戸田峠付近から眺めた場合も700m峰は顕著にピョンと尖がっている。

それとその700m峰の北に流れる沢名が「雉ヶ尾沢」と呼ばれている事実も判明した。確信はないが、状況証拠を考えるとやっぱり700m峰が「雉尾」とするのが自然であろう。

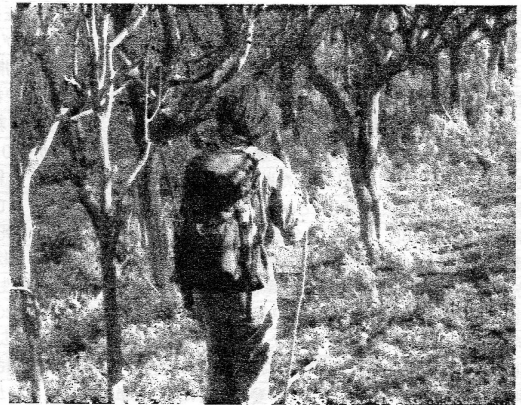
修善寺から温泉場に向かい右折して戸田峠に向かう。峠から戸田に降りる。左手に達磨山から駿馬山を結ぶ山稜が俯瞰出来る。「雉尾」はそのほぼ中央で、ひときわ目立つ。標高109mまで下ると左に「戸田大川」が流れ、最初の橋「達磨橋」がある。橋を渡り林道を少し上ると標高200mで左に曲がる。ここが「雉尾」から北西に落ちる大きな尾根の末端で、今回の取り付きである。道端にコンクリの階段があり檜林に道が延びる。「山火事注意・下細尾方面」の看板が立っている。

檜林の林床が綺麗な尾根を上る。藪はほとんど無い。快適にグングン上る。物凄い急登をこなすと左から自然林の尾根が合う。少し上ると「雉尾」だった。土肥のYさんの表示板があった。ただ、何故か「雉尾山・705m」とある。「登り尾」そうだが、河津町で「整備」して山名表示板を立てたが「登り尾山」にした。静岡市の「山伏」の山名表示板も「山伏山」にしてあるが、名称・名前は「文化」である。根拠無く、余りいじらない方が良く思う。

「雉尾」から東の尾根は綺麗な尾根だった。多分、動物によって踏まれているのだろう。等高線800mに上ると視界が開け富士山・達磨山・伊豆山稜線・土肥が望めた。だが、次第に笹がうるさくなる。840mでとうとうギブアップ。そこから北西

延びる尾根下る。この尾根も大体750mが笹の境だ。それを過ぎると綺麗になる。下ったすぐに765m峰の丸いピークがある。樹木が無ければさぞかし展望は良いと思うが生憎だ。ここで昼食とする。

再び下る。綺麗な尾根が続く。急な末端をドドドと下るとヒョッコリ林道に出る。今朝車で上った林道の延長だ。右に沢が流れ橋がある。名称は「雉子ケ尾橋」とある。とすると、やはり「雉尾」は700m峰とするのが自然だろうか。



綺麗な尾根を行く

雉尾上部から達磨山



雉子ケ尾橋

